

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実



「振り返る活動」の意義

- ◎ 本時の学習内容を確実に身に付けさせることができる。
- 自己の変容や成長を自覚することにより、充実感や満足感を味わわせるとともに、次時への学習意欲を高めることができる。
- 適切な評価により、評価結果を指導に生かすことができる。

振り返る活動

【学習内容の定着】

- 本時のまとめ
- 学習内容の再生と確認
- 習熟
- 評価（形成的評価）

学習内容の
確かな理解

【学習意欲の向上】

- 学習感想(自己の変容)
- 次時への意欲付け
- 自己評価、相互評価

ノート指導

ワークシートの活用

振り返るポイント

(1) 学習内容の定着

ア 本時のまとめは、課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。

- 例 ○ 板書で学習内容を振り返りながら教師と一しょにまとめる。
- キーワードを示して子ども自身がまとめる。
 - 子ども自身が本時の学習内容を振り返り自分自身の言葉でまとめる。

<5年理科板書例>

<p>10/4(火)</p> <p>か 電じしゃくのはたらきを大きくするにはどうすればよいだろうか。</p> <p><予想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池の数を増やす ・コイルのまき数を増やす <p><実験></p>	<p>整合性</p>	<p><結果></p> <p>1班 2班 3班 4班 5班</p> <p><考察></p> <p>ま 電流を強くしたり導線のまき数を多くしたりすれば電じしゃくのはたらきが大きくなる。</p>
---	------------	--



イ 解決された内容を再生して確認したり、習熟の機会を設けたりしながら、学習内容を定着させる。(※再生の例・「電じしゃくのはたらきを大きくする方法を隣の友達に一つ話そう。」)

ウ 本時のまとめに関連した問題を出して評価し、結果に応じて補充指導を行う。(形成的評価)

(2) 学習意欲の向上

ア **学習感想**を書く際には変容をとらえる視点(できるようになったことや工夫したことなど)を明確に示し、**よさや自分の成長を自覚**させる。(1)のアとは違う視点から書く。

イ 発展的な内容を意図的に取り上げたり、まだ、解決されないことは何かを考えさせたりして、**次時への意欲付け**を図る。

学習の足跡が残るノート指導



ノートは、学習の足跡が残る大切なものです。学んだことを確実に身に付けるために、また、復習などにも役立つように次のような指導をしてはどうでしょうか。

- 発達段階や教科の特質を考慮して、共通理解をしたノートづくりの指導を行う。
- 板書を写すだけでなく、どこに、何を書くのか、教科に応じて具体的に指導する。
- 色鉛筆やボールペン等の使い方を決める。また、消しゴムの使用を制限し、思考の足跡を残させる。
- 意図的にノートを評価し、よい点を称賛する。問題点については具体的に改善点を示し励ます。

形成的評価

- めざす児童生徒の姿を明確にした評価規準を学習過程に設定し、学習状況を多様な方法で評価する。
- 評価結果に基づいて子どもの学習を支援したり、学習活動を変更・改善したり、指導方法を改善したりする。

自己評価や相互評価

- 評価する必要性を実感させる。
- 初めは評価の観点や項目例などを示す。
- 文章で書く評価も取り入れる。
- 評価活動を肯定的に認め励ます。
- 時期と方法を計画的に設定し、継続する。